

## 令和元年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮共和大学
団 体 等 名	3年西山ゼミ
学生代表者氏名 (所属・学年)	伊佐岡 蓮斗 (宇都宮共和大学シティライフ学部 3年)
責任教職員氏名	西山 弘泰 (シティライフ学部専任講師)

1. 事業名	大谷景観復活プロジェクト
2. 実施時期	2019年5月～2019年12月
3. 実施場所	大谷を中心とした城山地区
4. 事業の内容等	<p>2018年度、大谷地区において草刈りやその他景観維持活動を行う中で、「ただ草刈りや清掃活動を毎年繰り返すだけでは持続性がない」と結論づけた。空き地の管理主体が、そこで非営利もしくは営利のために利活用することにより、はじめて持続性が担保される。そこで2019年度は空き地を管理するだけではなく、大谷地区の景観を活かした空き地の利活用を行い、観光振興に結び付けることを目的に活動を再開した。</p> <p>2019年度活動の皮切りは、大谷街道沿い6か所の除草作業であった(資料1)。約90人規模での開催となり、終了後には地域住民、市民団体との交流バーベキューを実施し、空き地の利活用を行った。その後8月14、15日は大谷石の採掘場跡地にて、「大谷石採掘場でカクテルと餃子を堪能しながらジャズを聴く」をコンセプトに、「大谷マイニングサイト」を開催し、多くの方に来場いただいた(資料2)。</p> <p>大谷マイニングサイトで来場者にアンケート調査を行った結果、大谷において無料で休憩する場所が少ないという意見が多かったことがわかった。そこで2018年度より管理している空き地を無償で借り受け(土地使用貸借契約を締結)、舗装やベンチとなる石の無償提供を受け、さらに施工を市内大手建設会社に協力していただき、ポケットパーク(無料休憩所)を開設する計画で準備を進めた。ところが10月12日の台風19号による河川氾濫によって大谷地区は甚大な被害を受け、当事業は延期となり、来年度の完成を目指している。</p> <p>その一方で、西山ゼミではお世話になった大谷地区の方々を支援すべく、10月以降当地区の復興支援を行っている。</p>

5. 事業の成果と今後の課題

本プロジェクトの価値は、民間や行政に先駆けて、大谷の新たな利活用方策を考え、それを口だけではなく行動で示したことにある。大谷は陥没事故以降、負のイメージが付きまとい、大谷石の景観が観光資源になると考えている人はそう多くはない。地元の方々にはありふれた日常の場所、風景かもしれないが、発表者らからする多くの魅力と可能性を秘めた資源である。そうした可能性に惹かれ、実際に本事業で連携した民間事業者が大谷にレストランを開業する計画が進んでいて、その成果が表れている。このほかにも、発表者らの活動がヒントとなり、大谷の観光開発、活性化が広がることを期待している。

第二の成果は、大谷の景観維持と利活用を通して、地元自治会や行政、まちづくり団体、クリエイター、民間事業者が協働したことで、より魅力的な事業を行うことができたことである。大谷に限ったことではないが、違った分野や立場、経験・知識を持った主体がコラボレーションすることによって、何倍もの力が発揮されることが本事業を通して証明できた。大谷を今後より発展させていくためには、大谷内外の主体が同じベクトルを向いて連携し、新たなアイデア、価値を創造していくことで、当地域の持続的な発展が加速していくと考えている。

第三には、本事業の成果を11月30日に開催された「学生&企業研究発表会」において報告し、金賞を獲得できたことである。これにより本事業を広く周知することができた。

今後の課題としては、今年度事業を計画していたポケットパークの建設に加え、大谷地区の国際化に向けた「アジアフードフェスin大谷」や大谷石採掘場跡地の天井（大谷石の岩盤）に映画を投影し、鑑賞する「映画観賞会」の開催など、多くの事業を今年度の教訓を踏まえ実施することである。また、3年生にかわり新2年生に当事業を引き継ぐことになるが、3年生が当事業にかけてきた思いや人的ネットワークなどをうまく引き継げるかが課題である。

資料1 8月4日の草刈り



○…1年青木良太さん(18)は「来訪者に美しい大谷を楽しんでもらいたい」と汗を滴らせて、懸命に取り組んでいた。

○…ゼミは同地区の活性化に取り組んでいる。学生のほか地元住民、大谷商工観光協力会、うつのみやシティガイド協会の関係者も参加。猛暑の中、草刈り機などを使って道路脇の雑草を取り除いた写真。

○…宇都宮市大谷地区の景観を整備しようと、宇都宮共和大シテイライフ学部西山弘泰専任講師のゼミに所属する学生ら約80人が4日、草刈りを行った。

下野新聞 2019年8月5日

資料2 8月14日、15日に実施された大谷マイニングサイト

下野新聞 2019年(令和元年)8月7日(水曜日)

餃子 シャズ カクテル

**14、15日 採石場跡で催し**

地区の空き地の有効利用に、同大の西山弘泰専任講師(36)のゼミが昨年度から取り組んでいる。

**宇都宮共和大生ら企画**

【宇都宮】宇都宮共和大シテイライフ学部の学生ら約14、15の両日、大谷町の大谷石採取場跡地周辺で、ビアガーデンの開催や餃子などの販売の企画を計画している。14日は「餃子」コンテストも開催予定で、「シャズ」「カクテル」と宇都宮の名物をとって、大谷地区を盛り上げたい考えだ。(小池電介)



ビアガーデンやコンサートの会場になる大谷石採取場跡地 (西山さん提供)

**宇都宮「名物」大谷に集合**

ら取り組んでいる「大谷景観復元プロジェクト」の一環。地区内で両日に開かれるイベント「大谷石まつり」に合わせ、見物客の回遊を促す効果も期待する。

両日も午前1時から、大谷景観公園の向かいにある採取場跡地にビアガーデンを開催するほか、隣接地にはビール、カクテルなどのドリンク類や宇都宮餃子会加盟の「薄皮無骨餃子」をはじめとしたフード類、地元産産物などの販売所を設ける。

販売所では、大谷までの交通手段や地区内で訪れた場所などを聞くアンケートも実施し、協力者には割引サービスがある。収益はゼミの大谷復興のための活動資金や、災害被災地への義援金として活用する。

西山ゼミの3年、伊佐岡選手さん(20)は、宇都宮が誇る観光地、大谷を訪れた方に地元文化を楽しんでもらえればうれしいと話している。(西山さん090・6112・4689)



当日の様子

2019年8月7日下野新聞

### 資料3 ポケットパークの建設準備

① 渡辺建設でプロジェクト説明



④ ベンチ用石材提供のお願い



⑤ 渡辺建設と現場視察



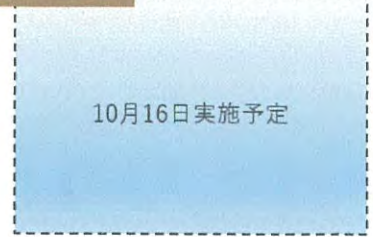
② 所有者との交渉



③ 古材の確保・運搬



⑥ 建設工事



### 資料4 復興支援

#### 被害状況

橋が損壊し主要道路遮断  
姿川が氾濫し家屋が床上浸水



#### 被災地支援

土砂さらい、畳や家財の搬出、危険物の除去作業等を20人態勢で実施

